

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200908		
法人名	株式会社ユニマツリタイヤメント・コミュニティ		
事業所名	中野新田グループホームそよ風 (ゆとりユニット)		
所在地	静岡県駿河区中野新田254-5		
自己評価作成日	令和1年8月25日	評価結果市町村受理日	令和元年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200908-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様は食べる事が好きなので、料理に力を入れております。料理の種類を増やす為、料理が得意な職員にはいつもとは違う、新しい料理を作っていただき、利用者様に食べてもらい、評価がよければ献立に入れていきます。味付けも薄味好きや、濃い味好きとしますので、その方にあった味付けをできるだけするようにしています。ホームだけの食事だけでなく、いつもとは違った場所での食事も楽しんで頂けるよう外食も行ってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「うちは食が自慢です」と言い切る程、食事に力を入れている事業所です。食材の買い出しにも利用者と職員とで出かけ、「今日は何にしようかあ〜」「桃が出たねえ、買ってかあ」と会話も弾み、またクラッカーの上に好みのものを乗せたり、白玉づくりやお好み焼き等参加型のおやつレクも盛んです。日頃からレクリエーションも豊富で、法人内事業所400余が結集しての「そよ風文化祭」に上位入所しているほか、「中野新田スタンプラリー」では「〇〇に行きたい」といった目標を立て、そのための「スクワット10回」との訓練メニューをリビングに掲示して鼓舞を図っていて、「笑顔溢れる〜」の理念に結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である【笑顔絶やさず笑顔溢れる施設】に基づき職員一同でご利用者様に楽しんで頂く為、毎月イベントを実地し充実した生活が送れるよう努力しています。	「笑顔溢れる～」を理念に掲げ、職員は「利用者の発語や表情の変化をキャッチする」「声をかける」「他の人と話材がつながるようにリレーションを支援する」ということを理念実現への職務と認識して、実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のイベントに参加し地域の方々との交流を積極的に行っております。ご利用者様と散歩に行った際には地域の方に挨拶をしてお話をしてご利用者様と地域の方との交流を深めています。	三味線、腹話術、マジックのボランティア来訪者も多く、また地域の敬老会、夏祭りにも例年出席しています。地域の応援者は豊富ですが、年々高齢化が進んでいるため、事業所では先細りを案じて自治会の常会参加も視野に入れていきます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症の方の介護についてお話をさせて頂き、「このようなご利用者様にはこういう対応をさせて頂いている」等の話をし、認知症の方の支援方法を知っていたり、よく伝えていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月のご利用者様の活動報告やサービスの実践等のお話をさせて頂いて、それについての意見や提案を取り入れサービス向上を目指しています。	民生委員や静岡市社会福祉協議会の事務長など地域参加者が雑談めいた会話の中で大切なことを語ってくださっています。「うちのボランティアが足りなくて～」との発言から、事業所のシニアサポーターを紹介したこともあり、相互協力の場と成っています。	業者におむつの当て方を学ぶ機会を得るとのことですので、運営推進会議との併催でのサプライズ講座としても検討されたら、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月来る相談員の方に自立支援に力を入れている事を伝え、相談員の方にも協力して頂いています。	本年は静岡市運営の丸子の匠宿への染物体験へと出かけたり、静岡市社会福祉協議会が運営する要支援のサロンへの訪問も今後は考えています。また、匠宿の染物は大変好評だったことから、第二弾も思案中と成っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月に1度開催しています。また身体拘束について毎月の全体会議で研修を行い、身体拘束をしないケアについて話し合いをし現場では職員同士声を掛け合いながら身体拘束をしないよう努めています。	昨年の法改正においては指針を整備して「身体的拘束適正化・虐待防止検討委員会」を設置のうえ、3ヶ月に1度の委員会開催も「毎月開催」と細目に取組み、特に新人職員の研修は「実施したこと」「習熟度」がよく判るシートを備えていて、安心な体制です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待についての研修も同じように行っております。管理者、職員で虐待に繋がらないよう声を掛け合いながら常日頃注意を払っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について内部で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事は説明した後に疑問点を訪ね、安心して納得いくまでお話をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来たときには、ご利用者様の様子を伝えしその中で意見や要望等を聞き、全体会議で職員と共有しています。また毎月ホーム便りを送付し各担当者がご利用者様の様子を記入し伝えていきます。	「そよ風通信」とともに、各係がさらに詳細を別紙で届け、家族の安心を担保しています。事業所へ返送する書類に「いつもお世話になります。皆様のおかげで～」といった感謝の気持ちを伝えるメモがついていることもあり、家族とは良好な関係が築けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、みんなで話し合いをし反映させています。また発言ができない職員に対しては個別に話しをし全員の意見が聞けるよう心掛けています。	毎月全体会議とともにユニット会議を重ねていますが、「ユニットの独自性が強くなると、一方のユニットへ応援がしにくい」との意見が職員からも挙がり、事業所としても危惧であるとし、意図的にユニット配置を交替している例もあり、一つのゴールに向かう意見の反映があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回面談を実施し、職員の状況を把握し困っている事や意見等を聞き、働きやすい環境作りを努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議時の内部研修や外部研修に積極的に参加してもらおうと努めています。外部研修で学んだ事を研修報告書にまとめ他の職員に共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者との会議に積極的に参加しており、ネットワークづくりや意見交換をしてサービス工場に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の要望や不安なことを聞きそれにお答えしながら、安心して頂ける関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面接で困っていることや不安に思っていること要望をお聞きし安心して入居できるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の面接時に生活状況をお聞きし、まず何が必要かを考え、必要であれば他のサービスの利用についてもお話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる利用者様には職員と一緒に家事をしたり、遊びを共にし、家族のような関係を築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に送っているホーム便りで本人の写真と共に普段の様子や変わった事を伝えていきます。また状態に変化があった時には、その都度電話でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人には、いつでも面会に来ていただけるようお願いしています。また家族との外出や外泊もして頂いています。	編み物を趣味としている人には介護相談員が「家にあったから…」と毛糸が届けられ、幼い時から塗り絵が好きとの人には管理者がスクラッチアートを勧めています。また水分補給のためのドリンクを好みのものが選べる等、生活の中でこれまでの事が続くように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションでは合同レクを行い、利用者様同士がコミュニケーションを取れるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談や支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いが言える方には本人から希望を聞き、それに向かって支援しています。困難な方は本人の立場で考え、支援していけるよう努力しています。	食後の穏やかな時間を利用して、会話のなかからスムーズにニーズやウオントを引き出しています。「いままで松坂屋にいったんだよ」と聞けばショッピングケアに伴い、「珈琲が好き」との話から喫茶店探訪につながる等、把握するだけでなく実行力が高いことが見てとれます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様や家族の方とのお話の中で生活歴や馴染みの暮らし方を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の状態を観察し、心身状態、有する力等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族に聞き取りし課題についてどんなケアを望んでいるかを把握しそれを元に介護計画を作成しています。	2月からペーパーレスが推進され、モニタリングや介護計画書はタブレットでチェックするようになり、職員が「必ず見る」頻度も増えています。介護計画書2表のサービス内容はシンプルなものの、タブレットの中には詳細が入っていて、職員がスムーズに確認出来ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、毎日の記録に残しており、朝と夕の申し送りでも共有しています。その情報をもとに		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに合ったサービスを行うように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を生かし、地域の一員として活動できるような行事への参加を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が月に2回あり、ご利用者様に何かあった時には協力医に連絡をすぐに対応してくれています。個人受診では家族の方が対応してくれています。	看護師を伴って訪問診療をおこなう協力医には、2名を除いて変更しており、その日の出勤者が立ち合い、個人ファイルとケアカルテに記録を残しています。また16名同じ医師ではなく、担当医がそれぞれに異なるため、1日に何名もの医師が入れ替わり立ち代わり来所しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1度健康管理に来ており、その時に個々のご利用者様の普段の情報や気づきを相談している。何かあったときには協力医に連絡するよう指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際は、病院関係者から情報を頂いたり、相談させて頂いています。退院の際は、情報を頂き施設の生活に早く戻れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最近では看取りが増えてきています。ご家族、医師、訪問看護師と相談しご家族やご利用者様の希望を聞き、方針を決め看護師・介護者の連携を取りながら支援しています。	協力医は看取りにも積極的で、重度化でも早めに家族を交えてのカンファレンスを開いており、これまでは難しかった看取り加算も申請が叶っています。旅立つ装束などをアプローチできようにもなり、それにつれて家族の関わりも増していて、満たされたお見送りに結ばれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変時、事故発生時は、マニュアルに沿って行うように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての避難訓練を年に2回行っています。地域の方々にもご協力をお願いしています。	有事については法人から対応手順などが明確に示され、防災担当が中心となり年2回、地震と火災とで訓練を実施しています。連絡網は公休の職員の携帯にも流して実践的におこない、1週間の備蓄とともにローリングストックも2~3日と、総計10日分の豊富さを誇ります。	「通報」「消火器」「避難誘導」などのメニューが万遍なくできているかといった見直しや、「できている」「できていない」といった自己評価もとっていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、言葉遣いや声の掛け方に注意を払い対応しています。	居室のノックや「大きな声で話さない」といったことは無論、「おみやげ(便)でしたか」と隠語を使用しています。また新人には管理者候補の職員が教育係となってOJTを推進しており、接遇マナーにおいても標準化を目指しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中でご利用者様に自己決定ができるような声掛けをするよう心掛けています。またご利用者様との話の中で否定的な言葉を控え自分の思いが気兼ねなく言えるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれのペースを大切に、やりたい事を自由にやっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選べる方にはご自分で選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な片づけや準備ができる利用者様には、職員と一緒にやっています。	夕食の主菜は魚と決め、煮たり焼いたり、餡かけだったり調理法を工夫しています。食材の買物には職員と出かけ、食器拭きの手伝いも出来る人にはお願いしています。クラッカーの上に好みのものを乗せたり、白玉づくりやお好み焼き等、参加型のおやつレクも盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状態を把握し、食べる量、水分量を調整し毎日記録に残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。口腔状態によってハブラシの人やクルリーナブラシで対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけており、ひとりひとりの排泄のパターンを把握しトイレ誘導やトイレの声掛けをしています。	リハパンとパットであっても、「大丈夫なんじゃない」を常に意識して進めており、徐々にパットをとってゆき、リハパンから布パンへと向上した例は沢山あります。変更時にも家族に話していて、「えーそうなんですか」と驚くとともに、悦ばれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹圧の運動や歩行練習、散歩を行い、食物繊維の豊富な食事を提供をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自分で意見ができる方は曜日や時間帯を聞き、なるべくご本人の意志に沿えるよう努めています。気が乗らない方は無理強いせず曜日をずらす対応をしています。	週2回を目安にして入浴プログラムを組んでいますが、本人本位の対応で進めていて、日や時間帯の変更に応じています。拒否の意向には本人が好きな職員が声をかける等その気になるポイントを見つけていて、無理強いせずに入ってもらえるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ももとの生活習慣やその時々状況に応じて、対応しています。眠る前には安心して眠れるよう声掛けに注意を払っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに綴じており、職員がいつでも確認できるようにしてあります。薬の変更があった時には必ず効果、副作用を職員同士で確認し理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活にメリハリを付けていただけるようにレクリエーションを行っています。また外出レクやボランティア、シニアサポーターさんに来ていただき話し相手になって頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	1人ひとりその方にあつた外出ができるよう心がけています。行きたい所がある方には希望に添えるよう職員同士で話し合いをし下見に行き、どこを回ろうかと調査をして、外出レクを行っています。	初詣、花見、紅葉、ブドウ狩りを年間計画に位置付けています。買い物がてらの散歩もあり、気分転換に戸外にでていて、「中野新田スタンプラリー」では個人の目標、例えば「〇〇に行きたい」を立て、そのための「スクワット10回」との訓練メニューを掲示して鼓舞を図っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金を預かっています。必要な物があればご家族に相談し許可をもらい買い物に付き添っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現時点では携帯電話を所持している方はいませんが、持っている方がいた時には、ご利用者様がご自分でご家族に連絡をされたりしていました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は居心地がいいと思って頂けるよう心がけています。季節が解るよう飾りつけに季節感が感じられる飾りつけをして工夫しています。	早番がリビング、事務所、玄関、各居室、キッチンを掃除機でかけ、モップで拭きあげています。換気は時間は決めておらず、職員が気づいたら開放するようにしていますが、地域との親密性もあって人の出入りも多く、戸外の空気が随時入ってきています。	棧など、毎日の掃除箇所でないところの掃除方法を改めて検討ください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置しているので、ご利用者様同士で座りながらお話をされくつろいでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物や大事にしていた物などを持ってきて頂き、本人が安心して過ごせるようにして頂いています。	利用者のプライベートルームにはベッド、カーテン(2枚重ね)、クローゼット、文机が予め備わっています。机には鉛筆立てや目覚まし時計、お気に入りのお菓子ボックスやペットボトルが並び、女学生の部屋かのように華やいだ居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はご利用者様の危険がないようにバリアフリーにしています。ご利用者様の自立した生活が送れるように工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200908		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	中野新田グループホームそよ風 (やすらぎユニット)		
所在地	静岡市駿河区中野新田254-5		
自己評価作成日	令和1年8月25日	評価結果市町村受理日	令和元年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200908-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様は食べる事が好きなので、料理に力を入れております。料理の種類を増やす為、料理が得意な職員にはいつもとは違う、新しい料理を作っていただき、利用者様に食べてもらい、評価がよければ献立に入れていきます。味付けも薄味好きや、濃い味好きとしますので、その方にあった味付けをできるだけするようにしています。ホームだけの食事だけでなく、いつもとは違った場所での食事を楽しんで頂けるよう外食も行ってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「うちは食が自慢です」と言い切る程、食事に力を入れている事業所です。食材の買い出しにも利用者と職員とで出かけ、「今日は何にしようかあ〜」「桃が出たねえ、買ってかあ」と会話も弾み、またクラッカーの上に好みのものを乗せたり、白玉づくりやお好み焼き等参加型のおやつレクも盛んです。日頃からレクリエーションも豊富で、法人内事業所400余が結集しての「そよ風文化祭」に上位入所しているほか、「中野新田スタンプラリー」では「〇〇に行きたい」といった目標を立て、そのための「スクワット10回」との訓練メニューをリビングに掲示して鼓舞を図っていて、「笑顔溢れる〜」の理念に結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である【笑顔絶やさず笑顔溢れる施設】に基づき職員一同でご利用者様に楽しんで頂く為、毎月イベントを実地し充実した生活が送れるよう努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加し地域の方々との交流を積極的に行っております。ご利用者様と散歩に行った際には地域の方に挨拶をしてお話をしてご利用者様と地域の方との交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症の方の介護についてお話をさせて頂き、「このようなご利用者様にはこういう対応をさせて頂いている」等の話をし、認知症の方の支援方法を知っていたくよう伝えていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月のご利用者様の活動報告やサービスの実践等のお話をさせて頂いて、それについての意見や提案を取り入れサービス向上を目指しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月来る相談員の方に自立支援に力を入れている事を伝え、相談員の方にも協力して頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月に1度開催しています。また身体拘束について毎月の全体会議で研修を行い、身体拘束をしないケアについて話し合いをし現場では職員同士声を掛け合いながら身体拘束をしないよう努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待についての研修も同じように行っております。管理者、職員で虐待に繋がらないよう声を掛け合いながら常日頃注意を払っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について内部で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事は説明した後に疑問点を訪ね、安心して納得いくまでお話をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来たときには、ご利用者様の様子を伝えしその中で意見や要望等を聞き、全体会議で職員と共有しています。また毎月ホーム便りを送付し各担当者にご利用者様の様子を記入し伝えていきます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、みんなで話し合いをし反映させています。また発言ができない職員に対しては個別に話しをし全員の意見が聞けるよう心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回面談を実施し、職員の状況を把握し困っている事や意見等を聞き、働きやすい環境作りを努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議時の内部研修や外部研修に積極的に参加してもらおうと努めています。外部研修で学んだ事を研修報告書にまとめ他の職員に共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者との会議に積極的に参加しており、ネットワークづくりや意見交換をしてサービス工場に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の要望や不安なことを聞きそれにお答えしながら、安心して頂ける関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面接で困っていることや不安に思っていること要望をお聞きし安心して入居できるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の面接時に生活状況をお聞きし、まず何が必要かを考え、必要であれば他のサービスの利用についてもお話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる利用者様には職員と一緒に家事をしたり、遊びを共にし、家族のような関係を築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に送っているホーム便りで本人の写真と共に普段の様子や変わった事を伝えています。また状態に変化があった時には、その都度電話でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人には、いつでも面会に来ていただけるようお願いしています。また家族との外出や外泊もして頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションでは合同レクを行い、利用者様同士がコミュニケーションを取れるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談や支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いが言える方には本人から希望を聞き、それに向かって支援しています。困難な方は本人の立場で考え、支援していけるよう努力しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様や家族の方とのお話の中で生活歴や馴染みの暮らし方を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の状態を観察し、心身状態、有する力等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族に聞き取りし課題についてどんなケアを望んでいるかを把握しそれを元に介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、毎日の記録に残しており、朝と夕の申し送りで共有しています。その情報をもとに		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに合ったサービスを行うように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を生かし、地域の一員として活動できるような行事への参加を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が月に2回あり、ご利用者様に何かあった時には協力医に連絡をしすぐに対応してくれています。個人受診では家族の方が対応してくれています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1度健康管理に来ており、その時に個々のご利用者様の普段の情報や気づきを相談している。何かあったときには協力医に連絡するよう指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際は、病院関係者から情報を頂いたり、相談させて頂いています。退院の際は、情報を頂き施設の生活に早く戻れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最近では看取りが増えてきています。ご家族、医師、訪問看護師と相談しご家族やご利用者様の希望を聞き、方針を決め看護師・介護者の連携を取りながら支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変時、事故発生時は、マニュアルに沿って行うように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての避難訓練を年に2回行っています。地域の方々にもご協力をお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、言葉遣いや声の掛け方に注意を払い対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中でご利用者様に自己決定ができるような声掛けをするよう心掛けています。またご利用者様との話の中で否定的な言葉を控え自分の思いが気兼ねなく言えるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれのペースを大切に、やりたい事を自由にやっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選べる方にはご自分で選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な片づけや準備ができる利用者様には、職員と一緒にやっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状態を把握し、食べる量、水分量を調整し毎日記録に残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。口腔状態によってハブラシの人やクルリーナブラシで対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけており、ひとりひとりの排泄のパターンを把握しトイレ誘導やトイレの声掛けをしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹圧の運動や歩行練習、散歩を行い、食物繊維の豊富な食事を提供をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自分で意見ができる方は曜日や時間帯を聞き、なるべくご本人の意志に沿えるよう努めています。気が乗らない方は無理強いせず曜日をずらす対応をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	もともとの生活習慣やその時々状況に応じて、対応しています。眠る前には安心して眠れるよう声掛けに注意を払っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに綴じており、職員がいつでも確認できるようにしてあります。薬の変更があった時には必ず効果、副作用を職員同士で確認し理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活にメリハリを付けていただけるようにレクリエーションを行っています。また外出レクやボランティア、シニアサポーターさんに来ていただき話し相手になって頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりその方にあつた外出ができるよう心がけています。行きたい所がある方には希望に添えるよう職員同士で話し合いをし下見に行き、どこを回ろうかと調査をして、外出レクを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金を預かっています。必要な物があればご家族に相談し許可をもらい買い物に付き添っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現時点では携帯電話を所持している方はいませんが、持っている方がいた時には、ご利用者様がご自分でご家族に連絡をされたりしていました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は居心地がいいと思って頂けるよう心がけています。季節が解るよう飾りつけに季節感が感じられる飾りつけをして工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置しているので、ご利用者様同士で座りながらお話をされくつろいでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物や大事にしていた物などを持ってきて頂き、本人が安心して過ごせるようにして頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はご利用者様の危険がないようにバリアフリーにしています。ご利用者様の自立した生活が送れるように工夫しています。		